

学会等発表実績

委託業務題目	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究(放射線治療グループ)
分担研究者名	石倉 聡
機関名	順天堂大学

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果		発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
発表題目	口頭・ポスター発表等の別				
Stereotactic body radiotherapy versus lobectomy for operable clinical stage IA pulmonary adenocarcinoma: Comparison of prospective clinical trials with propensity score analysis (JCOG1313-A)	ポスター	Eba J, Nakamura K, Mizusawa J, Suzuki K, Nagata Y, Koike T, Hiraoka M, Watanabe S, <u>Ishikura S</u> , Asamura H, Fukuda H.	The 50th American Society of Clinical Oncology Annual Meeting	2014年5月	国外
cStage IA肺腺癌手術可能例における定位放射線治療と肺葉切除の比較:傾向スコア解析	口頭	江場淳子、中村健一、水澤純基、鈴木健司、永田靖、小池輝明、平岡真寛、渡辺俊一、 <u>石倉聡</u> 、浅村尚生、福田治彦	第52回日本癌治療学会学術集会	2014年8月	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
該当なし				

学会等発表実績

委託業務題目	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究(脳腫瘍グループ)
研究分担者名	大野 誠
機関名	国立がん研究センター中央病院脳脊髄腫瘍科

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果		発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
発表題目	口頭・ポスター発表等の別				
高齢者膠芽腫患者に対するTemozolomide併用低分割放射線療法(45Gy/15fr)の治療効果の検証	口頭	大野 誠、宮北康二、小川 隆弘、高橋 雅道、葛岡 桜、中島 寿久、成田 善孝	日本脳神経外科学会第73回学術総会	2014年10月	国内
高齢者および低PS膠芽腫に対する放射線テモゾロミド療法適応の検討	ポスター	大野 誠、宮北康二、高橋 雅道、小川 隆弘、葛岡 桜、松下裕子、中島 寿久、市村 幸一、成田 善孝	第32回日本脳腫瘍学会学術集会	2014年11月	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
該当なし				

委託業務題目	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究(胃癌グループ)
研究分担者名	吉田和弘
機関名	岐阜大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果		発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
発表題目	口頭・ポスター発表等の別				
80歳以上高齢者における胃癌術後補助化学療法の検討.	口頭	棚橋利行、山口和也、八幡和憲、奥村直樹、松橋延壽、吉田和弘	第86回日本胃癌学会総会	2014年3月	国内
80歳以上高齢者における胃癌手術症例に対する術後補助化学療法の現状	ポスター	棚橋利行、山口和也、久野真史、市川賢吾、八幡和憲、今井寿、佐々木義之、田中善宏、奥村直樹、松橋延壽、野中健一、高橋孝夫、長田真二、吉田和弘、笹子三津留	第114回日本外科学会定期学術集会	2014年4月	国内
80歳以上高齢者における胃癌術後補助化学療法の現状.	口頭	棚橋利行、山口和也、田中善宏、奥村直樹、松橋延壽、高橋孝夫、長田真二、吉田和弘、笹子三津留	第69回日本消化器外科学会総会	2014年7月	国内
80歳以上高齢者早期胃癌患者に対する腹腔鏡下胃切除術の短期成績.	口頭	棚橋利行、山口和也、奥村直樹、田中秀治、深田真宏、兼松昌子、山田敦子、松井聡、今井寿、佐々木義之、田中善宏、松橋延壽、高橋孝夫、長田真二、吉田和弘	第27回日本内視鏡外科学会総会	2014年10月	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
胃癌 —高齢者の胃癌治療—	奥村直樹、棚橋利行、山口和也、吉田和弘	消化器外科 37(9):1409-1415	2014年9月	国内

学会等発表実績

委託業務題目	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究(胃癌グループ)
研究分担者名	平島 詳典
機関名	大分大学

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果		発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
発表題目	口頭・ポスター発表等の別				
高齢者進行・再発胃癌に対する治療開発～課題と今後の展望	口頭	平島詳典	第86回日本胃癌学会総会	2014年3月	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
該当なし				

学会等発表実績

委託業務題目	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究(乳がんグループ)
研究分担者名	澤木 正孝
機関名	愛知県がんセンター中央病院

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果		発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
発表題目	口頭・ポスター発表等の別				
該当なし					

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
Anti-HER2 Therapy in Elderly Breast Cancer Patients.	<u>Sawaki M</u>	Rev Recent Clin Trials	2014 Nov	国外
Trastuzumab emtansine in the treatment of HER2-positive metastatic breast cancer in Japanese patients.	<u>Sawaki M</u>	Breast Cancer: Targets and Therapy 6: 37-41	2014	国外
高齢者乳がん治療の現状と課題	澤木正孝、岩田広治	腫瘍内科, 第13巻第2号, pp198-204	2014年2月	国内
乳がん	澤木正孝、岩田広治	最新がん薬物療法学, 日本臨床72巻増刊号2(通巻第1054号), pp328-332	2014年2月	国内
Impact of Intrinsic Subtype on Predicting Axillary Lymph Node Metastasis in Breast Cancer.	<u>Sawaki M</u> , Idota A, Ichikawa M, Gondo N, Horio A, Kondo N, Hattori M, Fujita T, Yatabe Y, Iwata H.	Oncology letters 8: 1707-1712	2014	国外

学会等発表実績

委託業務題目	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究(婦人科腫瘍グループ)
研究分担者名(研究協力者)	恩田貴志、橋本和法、温泉川真由)
機関名	北里大学医学部産婦人科(東京女子医科大学産婦人科、国立がん研究センター乳腺腫瘍内科)

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果					
発表題目	口頭・ポスター発表等の別	発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
Tolerance and outcome of primary chemotherapy with carboplatin and docetaxel in elderly ovarian cancer patients.	ポスター	Hashimoto K, Sasaki K, Horibe Y, Fukagawa F, Akizawa Y, Ishitani K, Hirai Y, Matsui H	15th Biennial Meeting of the International Gynecologic cancer Society.	2014 Nov	国外

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
該当なし				

学会等発表実績

委託業務題目	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究(大腸がんグループ)
研究分担者名	濱口哲弥
機関名	国立がん研究センター

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果		発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
発表題目	口頭・ポスター発表等の別				
高齢者がん治療のエッセンス 高齢者がんにおける総合的機能評価 JCOG高齢者研究小委員会からの報告		長島 文夫(杏林大学 医学部内科 学腫瘍内科), 中村 健一, 小川 朝生, 濱口 哲弥, 北村 浩, 古瀬 純司.	第52回日本癌治療学会	8月	国内
高齢者大腸癌患者に対する臨床試験 (JCOG1018試験)を開始してわかりつつあること.	口頭	濱口哲弥	第27回日本サイコロロジー学会	10月	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
JCOG高齢者研究小委員会の活動と高齢大腸癌を対象とした臨床研究について	長島文夫、濱口哲弥、古瀬純司	癌と化学療法	42(1):16-20, 2015	国内

学会等発表実績

委託業務題目	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究(精神腫瘍学グループ)
研究分担者名	小川 朝生
機関名	独立行政法人国立がん研究センター

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果		発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
発表題目	口頭・ポスター発表等の別				
ICTによる高齢がん患者外来支援システムの開発	ポスター	小川朝生	横浜市(第52回日本癌治療学会学術集会)	2014年8月	国内
がん診療連携拠点病院の新要件 傾向と対策	口頭	小川朝生	第19回日本緩和医療学会学術大会, 神戸市	2014年9月	国内
認知症の緩和ケア 総合病院の精神科医が果たす役割	口頭	小川朝生	第27回日本総合病院精神医学会総会 茨城県つくば市	2014年11月	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
Characteristics of elderly cancer patients' concerns and their quality of life in Japan: a Web-based survey.	T. Nakanotani, T. Akechi, T. Takayama, A. Karato, Y. Kikuuchi, N. Okamoto, K. Katayama, M. Yokoo, A. Ogawa.	Jpn J Clin Oncol	2014	国外
Comprehensive assessment of cancer patients' concerns and the association with quality of life.	M. Yokoo, T. Akechi, T. Takayama, A. Karato, Y. Kikuuchi, N. Okamoto, K. Katayama, T. Nakanotani, A. Ogawa.	Jpn J Clin Oncol	2014	国外
Association between adjuvant regional radiotherapy and cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy.	O. Shibayama, K. Yoshiuchi, M. Inagaki, Y. Matsuoka, E. Yoshikawa, Y. Sugawara, T. Akechi, N. Wada, S. Imoto, K. Murakami, A. Ogawa, A. Akabayashi, Y. Uchitomi.	Cancer Medicine	2014	国外

Prevalence, associated factors and source of support concerning supportive care needs among Japanese cancer survivors.	S.Umezawa, D.Fujisawa, M.Fujimori, A.Ogawa, E.Matsushima, M.Miyashita.	Psychooncology	in press	国外
がんとうつ病の関係.	<u>小川朝生</u>	看護技術	2014年	国内
精神科医療と緩和ケア	<u>小川朝生</u>	精神医学	2014年	国内
高齢がん患者のサイコオンコロジー	<u>小川朝生</u>	腫瘍内科	2014年	国内
患者・家族へのがん告知をどう行うか	<u>小川朝生</u>	消化器の臨床	2014年	国内
DSM-5	<u>小川朝生</u>	プロフェッショナルがんナーシング	2014年	国内
CAM	<u>小川朝生</u>	プロフェッショナルがんナーシング	2014年	国内
いまや、がんは治る病気	<u>小川朝生</u>	健康365	2014年	国内
急性期病棟における認知症・せん妄の現状と問題点	<u>小川朝生</u>	看護師長の実践！ナースマネージャー	2014年	国内
認知症～急性期病院が向き合うとき(1)	<u>小川朝生</u>	CBnews management	2014年	国内
認知症～急性期病院が向き合うとき(2)	<u>小川朝生</u>	CBnews management	2014年	国内
認知症～急性期病院が向き合うとき(3)	<u>小川朝生</u>	CBnews management	2014年	国内
認知症～急性期病院が向き合うとき(4)	<u>小川朝生</u>	CBnews management	2014年	国内
認知症～急性期病院が向き合うとき(5)	<u>小川朝生</u>	CBnews management	2014年	国内
認知症患者のがん診療	比嘉謙介、 <u>小川朝生</u>	癌と化学療法	2014年	国内
高齢者を中心としたがん患者の大規模対面調査の実施-その意義と課題について	<u>小川朝生</u>	月刊新医療	2014年	国内

学会等発表実績

委託業務題目	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究(QOLグループ)
研究分担者名	安藤 昌彦
機関名	名古屋大学医学部附属病院

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果		発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
発表題目	口頭・ポスター発表等の別				
該当なし					

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
Randomized controlled trial comparing docetaxel-cisplatin combination with weekly docetaxel alone in elderly patients with advanced non-small-cell lung cancer	Tsukada H, Yokoyama A, Goto K, Shinkai T, Harada M, <u>Ando M</u> , Shibata T, Ohe Y, Tamura T, and Saijo N.	Jpn J Clin Oncol (in press)	2014	国外
Randomized phase III trial comparing weekly docetaxel plus cisplatin and docetaxel monotherapy every 3 weeks in elderly patients with advanced non-small-cell lung cancer: the intergroup trial JCOG0803/WJOG4307L	Abe T, Takeda K, Ohe Y, Kudoh S, Ichinose Y, Okamoto H, Yamamoto N, Yoshioka H, Minato K, Sawa T, Iwamoto Y, Saka H, Mizusawa J, Shibata T, Nakamura S, <u>Ando M</u> , Yokoyama A, Nakagawa K, Saijo N, and Tamura T.	J Clin Oncol (in press)	2014, in press	国外
Haloperidol Prophylaxis is not Effective for Preventing Postoperative Delirium in Elderly Patients: A Randomized, Open-label Prospective Trial	Fukata S, kawabata Y, Fujisiro K, Katagawa Y, Kuroiwa K, Akiyama H, Terabe Y, <u>Ando M</u> , Kawamura T, and Hattori H.	Surg Today 2014;44:2305-2313	2014	国外

<p>First-line gefitinib therapy for elderly patients with non-small cell lung cancer harboring EGFR mutation: Central Japan Lung Study Group 0901</p>	<p>Takahashi K, Saito H, Hasegawa Y, <u>Ando M</u>, Yamamoto M, Kojima E, Sugino Y, Kimura T, Nomura F, Ogasawara T, Shindoh J, Yoshida N, and Suzuki R.</p>	<p>Cancer Chemother Pharmacol 2014;74:721-727</p>	<p>2014</p>	<p>国外</p>
---	--	---	-------------	-----------

学会等発表実績

委託業務題目	高齢がん患者における脆弱性の画像評価に関する研究(放射線診断学グループ)
研究分担者名	女屋博昭
機関名	群馬県立がんセンター

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果		発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
発表題目	口頭・ポスター発表等の別				
米国臨床腫瘍学会(ASCO)/日本臨床腫瘍学会(JSMO)合同シンポジウム テーマ:がん診療・がん研究とHealth Information Technology(HIT) 日本における画像診断コンサルテーション	講演	女屋博昭	第12回日本臨床腫瘍学会学術集会	2014年7月	国内
【教育展示】画像診断コンサルテーション:オンラインシステムを利用した臨床試験の画像中央判定の支援の試み	ポスター	女屋博昭	第50回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2014年9月	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
画像診断コンサルテーション 8年間の実績	女屋博昭	臨床放射線 2014;59:1749-1758	2014年11月	国内

学会等発表実績

委託業務題目	高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究(高齢者総合機能評価)
研究分担者名	海堀昌樹
機関名	関西医科大学附属枚方病院

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果		発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
発表題目	口頭・ポスター発表等の別				
該当なし					

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
pyroGlu-Leu inhibits the induction of inducible nitric oxide synthase in interleukin-1 β -stimulated primary cultured rat hepatocytes.	Oishi M, Kiyono T, Sato K, Tokuhara K, Tanaka Y, Miki H, Nakatake R, <u>Kaibori M</u> , Nishizawa M, Okumura T, Kon M.	Nitric Oxide.	2014 Dec	国外
Higher complication rate in hepatocellular carcinoma patients undergoing prophylactic cholecystectomy with curative hepatic resection.	<u>Kaibori M</u> , Kubo S, Nagano H, Hayashi M, Nakai T, Ishizaki M, Matsui K, Uenishi T, Takemura S, Wada H, Marubashi S, Komeda K, Hirokawa F, Nakata Y, Uchiyama K, Kwon M.	Hepatogastroenterology	2014	国外
Detection of portal vein stenosis by technetium-99m-diethylenetriaminepentaacetic acid-galactosyl human serum albumin liver scintigraphy after living-donor liver transplantation.	<u>Kaibori M</u> , Kariya S, Matsui K, Ishizaki M, Ikeda H, Nakahashi Y, Hirohara J, Hakawa SK, Tanigawa N, Sawada S, Okazaki K, Kwon AH.	Hepatogastroenterology	2014	国外

Do patients with small solitary hepatocellular carcinomas without macroscopically vascular invasion require anatomic resection? Propensity score analysis.	Hirokawa F, Kubo S, Nagano H, Nakai T, <u>Kaibori M</u> , Hayashi M, Takemura S, Wada H, Nakata Y, Matsui K, Ishizaki M, Uchiyama K.	Surgery	2015 Jan	国外
Influence of Rictor and Raptor Expression of mTOR Signaling on Long-Term Outcomes of Patients with Hepatocellular Carcinoma.	<u>Kaibori M</u> , Shikata N, Sakaguchi T, Ishizaki M, Matsui K, Iida H, Tanaka Y, Miki H, Nakatake R, Okumura T, Tokuhara K, Inoue K, Wada J, Oda M, Nishizawa M, Kon M.	Dig Dis Sci	2014	国外
Alpha-lipoic acid exerts a liver-protective effect in acute liver injury rats.	Tanaka Y, <u>Kaibori M</u> , Miki H, Nakatake R, Tokuhara K, Nishizawa M, Okumura T, Kwon AH.	J Surg Res	2014 Sep	国外
Late-onset bile leakage after hepatic resection.	<u>Kaibori M</u> , Shimizu J, Hayashi M, Nakai T, Ishizaki M, Matsui K, Kim YK, Hirokawa F, Nakata Y, Noda T, T6 Dono K, Nozawa A, Kwon M, Uchiyama K, Kubo S.	Surgery	2014 Sep	国外
Antibiotic prophylaxis in laparoscopic cholecystectomy: a randomized controlled trial.	Matsui Y, Satoi S, <u>Kaibori M</u> , Toyokawa H, Yanagimoto H, Matsui K, Ishizaki M, Kwon AH.	PLoS One	2014 Sep	国外
Adenosine, a hepato-protective component in active hexose correlated compound: Its identification and iNOS suppression mechanism.	Tanaka Y, Ohashi S, Ohtsuki A, Kiyono T, Park EY, Nakamura Y, Sato K, Oishi M, Miki H, Tokuhara K, Matsui K, <u>Kaibori M</u> , Nishizawa M, Okumura T, Kwon AH.	Nitric Oxide	2014 Aug	国外

High Survival in Patients Operated for Small Isolated Liver Metastases from Gastric Cancer: A Multi-institutional Study.	Komeda K, Hayashi M, Kubo S, Nagano H, Nakai T, <u>Kaibori M</u> , Wada H, Takemura S, Kinoshita M, Koga C, Matsumoto M, Sakaguchi T, Inoue Y, Hirokawa F, Kwon AH, Uchiyama K.	World J Surg	2014 Oct	国外
Temporal and spatial dependence of inflammatory biomarkers and suppression by fluvastatin in dextran sodium sulfate-induced rat colitis model.	Oishi M, Tokuhara K, Miki H, Tanaka Y, Yamaki S, <u>Kaibori M</u> , Yoshizawa K, Yuri T, Yoshigai E, Nishizawa M, Okumura T, Kwon AH.	Dig Dis Sci	2014 Sep	国外
The long-term outcomes after curative resection for mass-forming intrahepatic cholangiocarcinoma associated with hepatitis C viral infection: a multicenter analysis by Osaka Hepatic Surgery Study Group.	Uenishi T, Nagano H, Marubashi S, Hayashi M, Hirokawa F, <u>Kaibori M</u> , Matsui K, Kubo S.	J Surg Oncol	2014 Aug	国外
Comparison of Tc-99m GSA scintigraphy and CT volumetry for evaluation in portal vein embolization.	Kono Y, Kariya S, Komemushi A, Nakatani M, Yoshida RY, Suzuki S, Hara K, Utsunomiya K, Ueno Y, Satoi S, <u>Kaibori M</u> , Kon M, Tanigawa N.	Minim Invasive Ther Allied Technol.	2014 Aug	国外
Bone Marrow Cells Enhance Liver Regeneration After Massive Hepatectomy in Mice.	<u>Kaibori M</u> , Adachi Y, Shimo T, Ishizaki M, Matsui K, Tanaka Y, Ohishi M, Araki Y, Tokuhara K, Okumura T, Nishizawa M, Kwon AH.	Dig Dis Sci	2014 Jul	国外
【消化器外科術後合併症の治療】肝細胞癌肝切除後の合併症対策 危険因子に関する検討.	石崎 守彦, 海堀 昌樹, 松井 康輔, 中竹 利知, 松島 英之, 坂口 達馬, 権 雅憲	外科	2014年	国内

肝切除術後胆汁漏と細菌感染に関する多施設共同研究.	清水 潤三, 海堀 昌樹, 村上 昌裕, 野田 剛広, 堂野 恵三, 松井 康輔, 権 雅憲, 林 道廣, 廣川 文鋭, 坂田 親治, 竹村 茂一, 中多 靖幸, 中居 卓也, 久保 正二.	日本外科感染症学会雑誌	2013年	国内
【予防投与抗菌薬】肝障害併存肝細胞癌切除術における術中予防的抗菌薬投与時間の腎機能別検討.	海堀 昌樹, 中村 竜也, 松井 康輔, 石崎 守彦, 坂口 達馬, 松島 英之, 松本 研二, 権 雅憲.	日本外科感染症学会雑誌	2014年	国内
【術後早期回復のための代謝・栄養サポートのエッセンス:基礎から実践まで】術後回復促進のためのエッセンス 日本外科代謝栄養学会ESSENSEプロジェクト.	宮田 剛, 石橋 生哉, 海堀 昌樹, 谷口 英喜, 深柄 和彦, 若林 秀隆, 鷺澤 尚宏.	日本手術医学会誌	2014年	国内
肝胆膵外科領域における術後回復促進策実践での問題点.	海堀 昌樹	外科と代謝・栄養	2014年	国内
日本外科代謝栄養学会評議員在籍施設における周術期管理の現状.	海堀 昌樹, 石橋 生哉, 谷口 英喜, 深柄 和彦, 若林 秀隆, 鷺澤 尚宏, 宮田 剛, 日本外科代謝栄養学会周術期管理ワーキンググループ.	外科と代謝・栄養	2014年	国内
【各種肝疾患病態における臨床栄養の役割】巻頭言:特集にあたって.	海堀 昌樹	臨床栄養	2014年	国内
【各種肝疾患病態における臨床栄養の役割】肝癌患者の栄養管理 チーム医療による術前術後フォローアップ	吉内 佐和子, 松井 康輔, 石崎 守彦, 海堀 昌樹, 木村 稔.	臨床栄養	2014年	国内
【各種肝疾患病態における臨床栄養の役割】進行肝細胞癌の周術期ならびに術後化学療法施行時における癌免疫栄養療法に関する検討.	石崎 守彦, 海堀 昌樹, 松井 康輔, 飯田 洋也, 坂口 達馬, 松島 英之, 中竹 利知, 権 雅憲.	臨床栄養	2014年	国内
【高齢者に対する癌治療ベストプラクティス】肝細胞癌 高齢者肝細胞癌切除成績よりみた外科手術治療指針と周術期管理について.	飯田 洋也, 海堀 昌樹, 松井 康輔, 石崎 守彦, 松島 英之, 坂口 達馬, 権 雅憲.	消化器外科	2014年	国内

【高齢者外科:周術期栄養管理をめぐる諸問題】高齢者手術の周術期栄養管理における成績評価上の問題点	海堀 昌樹, 権 雅憲, 福島 亮治, 大村 健二.	外科と代謝・栄養	2014年	国内
Pain Visionを用いた術後の疼痛評価	大北 沙由利, 平川 紗千子, 松井 康輔, 石崎 守彦, 福井 淳一, 海堀 昌樹.	消化器外科Nursing.	2014年	国内
【高齢者の術後早期回復はどこまで可能か? -現実と課題-】高齢肝がん患者の術後早期回復のための課題	海堀 昌樹, 飯田 洋也, 松井 康輔, 石崎 守彦, 松島 英之, 坂口 達馬, 井上 健太郎, 権 雅憲.	静脈経腸栄養	2014年	国内
【消化器外科手術ピットフォールとリカバリショット】II.各論 5.肝b) 肝動脈損傷, 胆汁漏,胆管損傷への対応	飯田 洋也, 海堀 昌樹, 松井 康輔, 石崎 守彦, 井上 健太郎, 権 雅憲.	外科		国内
肝機能障害. 悪液質とサルコペニア(リハビリテーション栄養アプローチ)	海堀 昌樹, 水田 敏彦, 西口 修平.	医歯薬出版株式会社	2014年	国内
鎮痛方法と痛みの評価	海堀 昌樹, 谷口 英喜.	ESSENSE	2014年	国内
消化器外科領域におけるドレーンの可否	海堀 昌樹	ESSENSE	2014年	国内
1術前の処置. Q16 術前の輸液は必要?	海堀 昌樹	術前・術後ケアの「これって正しい?」Q&A 100	2014年	国内
9栄養管理. Q83 消化管の手術ではない場合、翌日まで絶飲食する必要があるの?	海堀 昌樹	術前・術後ケアの「これって正しい?」Q&A 100	2014年	国内
9栄養管理. Q94 術後の経口栄養も推奨されているって本当?	海堀 昌樹	術前・術後ケアの「これって正しい?」Q&A 100	2014年	国内

IV. 研究成果の刊行物・別刷

JCOG 高齢者研究小委員会の活動と高齢大腸癌を 対象とした臨床研究について

長島 文夫*¹ 濱口 哲弥*² 古瀬 純司*¹

[*Jpn J Cancer Chemother* 42(1): 16-20, January, 2015]

Activity of the JCOG Geriatric Study Committee and Chemotherapy of Colorectal Cancer in Older Patients: Fumio Nagashima*¹, Tetsuya Hamaguchi*² and Junji Furuse*¹ (*¹Dept. of Medical Oncology, Kyorin University School of Medicine, *²Dept. of Gastrointestinal Oncology, National Cancer Center Hospital)

Summary

Japan Clinical Oncology Group (JCOG) is a largest cooperative group in Japan, funded by the ministry of health, labor and welfare of Japanese government. We just established the Geriatric Study Committee in December 2013. The goal of this committee is to make a policy to promote clinical trials for older patients with 3 major tasks: (1) Create a clear and operational definition of vulnerability/frailty applicable to oncology, (2) Develop, test and disseminate geriatric assessments, (3) Improve research in the field of geriatric oncology, in collaboration with SIOG. JCOG1018 is a randomized phase III study of mFOLFOX7 or CAPOX plus bevacizumab versus 5-fluorouracil/Leucovorin or capecitabine plus bevacizumab as first-line treatment in elderly patients with metastatic colorectal cancer. This study includes geriatric assessments (VES-13) before chemotherapy. **Key words:** Geriatric assessment, G8, Colorectal cancer, **Corresponding author:** Fumio Nagashima, Department of Medical Oncology, Kyorin University School of Medicine, 6-20-2 Shinkawa, Mitaka, Tokyo 181-8611, Japan

要旨 高齢がんの診療では、年齢・PS以外にも虚弱（フレイル）を評価することは重要とされ、ADLや認知機能、抑うつ、併存症、服薬状況、社会的支援などの geriatric assessment (GA) を行うことが国際老年腫瘍学会 (SIOG) において推奨されている。日本臨床腫瘍研究グループ (JCOG) は高齢者研究小委員会を設置し、GAを含む臨床研究ポリシーを策定すべく検討中である。エビデンスは少ないものの高齢の切除不能大腸癌の初回化学療法として、69歳以下と70~74歳でPS 0-1の患者に対しては標準治療の導入を考慮する。一方、70~74歳の脆弱患者 (PS 2) および75歳以上 (PS 0-2) においては、オキサリプラチンやイリノテカンの導入には慎重な判断が必要と考えられ、JCOGでは高齢の切除不能大腸癌を対象として、オキサリプラチンの上乗せ効果をみる第Ⅲ相比較試験 (JCOG1018) が進行中である。

I. 高齢がんにおける特殊性

国際老年腫瘍学会 (International Society of Geriatric Oncology: SIOG) 学術総会が2014年10月23日からポルトガルにて開催された。今年のテーマは“Bringing two worlds together: Oncology and Geriatrics”であり、腫瘍学と老年医学の重なる領域に家族および介護者に囲まれた高齢がん患者がいるという考え方が提示された。

一般に、高齢（虚弱）のがん患者では、加齢に伴う生理的变化に加えて、併存疾患による内服薬の増加、認知機能低下などの精神心理的な問題、家族形態や経済的困

窮などといった社会的問題などが存在する。各患者の多様性に応じて、提供し得る治療の個別化を考慮する。高齢であっても全身状態が良好であれば非高齢者で確立している標準治療を行うが、高齢（虚弱）者でも導入できるかどうかは、治療法の強度、さらにはがん腫によって異なると考えられる。日本人死因の第1位はがんであるが、高齢になると併存症も多くなり、がん以外の死因が増えてくる。また、医療提供者は各患者の虚弱の程度を正確に把握できているとは限らない。高齢（虚弱）がんにおいては、実地診療に有用な geriatric assessment (GA) ツールの開発と高齢者を対象とした臨床研究の推

*¹ 杏林大学医学部・内科学（腫瘍科）

*² 国立がん研究センター中央病院・消化管内科

進といった両側面から検討を進めていくことが重要である。

II. 老年腫瘍学 (geriatric oncology) の現状

長寿科学総合研究 CGA ガイドライン研究班によると、高齢者総合的機能評価 (comprehensive geriatric assessment: CGA) は、①日常生活活動度 (activity of daily life: ADL)、②手段的日常生活活動度 (instrumental ADL: IADL)、③認知能、④情緒・気分・幸福度、⑤コミュニケーション、⑥社会的環境 (家庭環境、介護者、支援体制など) を基本的構成成分として、その活用を提言している [長寿科学総合研究 CGA ガイドライン研究班 (鳥羽研二・監修): 高齢者総合的機能評価ガイドライン。厚生科学研究所, 2003]。本邦における老年医学の考え方が、腫瘍学にどのように応用できるのかは今後の課題といえる。

NCCN ガイドライン (senior adult oncology) によれば加齢は個人差が大きいので、がん治療が適切かの判断は余命の推定やリスクの評価が重要であるとされている。これまでにがん診療においても GA の有用性が報告されており、SIOG はがん診療における GA の実施を推奨している。2013 年の SIOG 学術集会において、「高齢がん患者の高齢者機能評価に関する SIOG コンセンサス」がアップデートされた。GA を行う理由として、以下の三つがあげられている。①未確認の問題およびリスクの発見、②有害転帰の予測 (たとえば有害事象、機能あるいは認知力の低下、術後合併症など)、③余命予測および悪性腫瘍による死亡の予測の補助である。

European Organisation for Research and Treatment of Cancer (EORTC) は、高齢のがん患者が対象である臨床試験を先導することを目的に、Eldery Task Force を 2009 年に設置している。臨床試験の方法論を確立する、高齢者を評価するための共有ツールを開発する、translational research を実施することがミッションである。SIOG および EORTC コミュニティーで比較的良好に用いられる GA スクリーニングツールとしては、G8, vulnerable elders survey-13 (VES-13), flemish version of the Triage Risk Screening Tool (fTRST) などがあり、それぞれ特徴がある。EORTC では 2014 年 9 月以降は、全試験で 70 歳以上の患者を対象に G8 (表 1) の収集を義務付けることになった。

本邦では、2014 年 3 月に日本臨床腫瘍研究グループ (JCOG) が高齢者研究小委員会を設置した。本邦には高齢がんを対象とした senior adult oncology のプログラムなどが存在しなかったため、各臓器がんグループからだけでなく、放射線治療や消化器内視鏡といった治療モダ

リティーに特化したグループ、精神医学、老年医学、臨床薬理学など複数領域研究者間で意見調整を行えるように配慮した。本委員会では、①高齢 (虚弱) 者の定義をがん治療の視点から検討、②高齢 (虚弱) 者をスクリーニングする実際的な方法を検討、③高齢 (虚弱) 者を対象とした臨床研究のための高齢者研究ポリシーをまとめることを責務としている。現在、JCOG 試験共通の GA スクリーニングツールを選定する作業などを進めている。

III. 切除不能高齢者大腸癌についての取り組み

本邦の大腸癌 (結腸癌・直腸癌) に関するがん統計によると、年齢階級別罹患数における後期高齢者が占める割合は 36.6% である。また、2009 年の年齢階級別死亡数における後期高齢者が占める割合も 55.4% と大腸癌死亡者の半数以上を後期高齢者が占めている¹⁾。また、がん患者が最も速やかに増加するコホートは 65 歳以上であり、20 年以内に新規大腸癌患者の 75% 以上、大腸癌死亡者の 85% 以上を 65 歳以上の患者が占めると予想されている²⁾。

本邦における大腸癌治療後の予後は、大腸癌全国登録 (1991~1994 年度) によると、累積 5 年生存割合が Stage 0: 94.3%, Stage I: 90.6%, Stage II: 81.2%, Stage IIIa: 71.4%, Stage IIIb: 56.0%, Stage IV: 13.2% となっている³⁾。このように大腸癌の予後は、Stage I, II, III に比して Stage IV, すなわち遠隔転移が認められる場合には著しく不良である。

Stage IV を含めた治癒切除不能の進行・再発大腸癌において、16 の第 II, 第 III 相試験を集めて行った統合解析の結果から、化学療法施行前の performance status (PS), 白血球数, ALP, 転移臓器数が予後因子であると報告されている⁴⁾。新規薬剤の登場は過去 10 年間の全身化学療法の進歩により、予後は大幅に改善し、治癒切除不能の進行・再発大腸癌においても全生存期間中央値 (median survival time: MST) は 2 年程度が期待できる。

1997~2000 年に米国で施行された大腸癌の第 II 相または第 III 相臨床試験、495 試験に登録された大腸癌患者 59,300 名の統合解析によれば、疾患登録のデータで同時期に進行大腸癌と新規に診断された患者のなかで高齢者の占める割合は 73% であったにもかかわらず、臨床試験の登録患者に占める高齢者の割合は 41% にすぎなかった⁵⁾。これは高齢者で積極的に臨床試験へ参加しようとする患者が少数であることに加え、臨床試験では一般に合併症がほとんどなく PS が良好な高齢者のみを対象としていることが原因と考えられ、虚弱な前期高齢者あるいは後期高齢者を含む「一般的」な高齢者の予後を、臨